

## 在米日本人留学生のソーシャル・サポート・ネットワーク (3)

### ーソーシャル・スキル人為学習者におけるソーシャル・サポートー

#### Social Support Networks of Japanese Students Studying in the U.S. (3):

#### Social Support Obtained by Students who Acquired Social Skills in a Session

○高濱 愛 (一橋大学) Ai Takahama(Hitotsubashi University)

田中共子 (岡山大学) Tomoko Tanaka(Okayama University)

### はじめに

留学先におけるソーシャルスキルの使用は、ソーシャル・ネットワーク（人間関係網）の形成を促し、ソーシャル・サポート（周囲からの有形無形の支援）の獲得につながると考えられている (Takahama, Nishimura, and Tanaka, 2008)。そこでスキル獲得を促す目的から、我々は留学前準備教育として、日本の大学でソーシャルスキル学習セッションを提供する試みを続けてきた (高濱、2011)。セッション時には、アメリカの社会・文化で受け入れられている対人行動に関する認知と行動とを学んでいたことが確認されている (高濱・田中、2011c; 2012)。本発表では、セッションに参加した日本人女子学生4名が、アメリカ留学中にどのようなソーシャル・サポート・ネットワークを築いたかを報告する。

### 方法

**調査対象者** 高濱・田中 (2010) に報告されている留学前アメリカン・ソーシャルスキル学習セッションに参加した、日本人女子大学生4名 (S11、S12、S13、S14)。全員 20歳代前半で、日本の X 大学の文系学部に所属しており、セッション受講の約1か月後に、アメリカの同じ大学に9か月間の交換留学に行った。

**手続き** 第一筆者が彼女たちの渡航後8ヶ月経過時点（留学後期）にアメリカの留学先を訪問し、面接法と質問紙法を併用した調査を実施した。先に同様のセッションを受講した学生の留学中の様子を調べたが (高濱・田中、2009)、留學生活に関する同じ質問紙を渡して記入してもらった。書き込まれたものをみながら、調査者が内容をさらに詳しく尋ねる1時間ほどの半構造化面接を行った。さらに彼女たちの帰国後約3か月の時期に、同一の質問紙を用いて郵送による調査を実施し、留学の最後の時点（留学終盤）の様子について回答を求めた。2回の調査のいずれも、回収率は100%であった。

**質問項目** 田中(2000, p64)をもとに作成した、ソーシャルネットワークに関する質問項目 (高濱・田中, 2011a, 2011b) を用いた。まず、5人以上最大10名までのネットワーク構成員を略号で挙げてもらい、その後それぞれの構成員の性別、年齢 (4種類)、国籍 (2種類)、回答者との関係 (7種類)、援助期待 (3件法)、関係満足度 (4件法)、相互依存度 (3件法)、接触回数 (5件法)、話題 (2種類・2件法)、既知性 (2種類)、近接性 (2種類) について尋ねた。

## 結果

S13は、留学終盤のアンケートに「前と同じです」と記したため、後期の回答と同一の内容として扱った。まず、ネットワーク構成員の人数（表1）についてみると、後期には全員10名と答えているが、終盤は10名未満と回答したものが2名いた。構成員の国籍割合（表2）を算出してみると、両時期を通じて他国人の割合が比較的高いが、総じて3つの国籍カテゴリーに散在している。ネットワークの質について視察していくと、アメリカ人構成員との関係においては、コンパニオンシップ（一緒に楽しむ）と情報のサポートを後期に、勉強・相談・情報のサポートを終盤に多く得ている。関係が非常に満足または満足と評価された構成員の割合を満足度とすると、終盤で100%、接触頻度も100%と高い。関係の既知性という点では、全く新規の関係を現地で構築しており、終盤には個人的・一般的な話のできるメンバーが増えている。構成員の国籍別カテゴリーの割合（表3）はおおむね、S11では日本人が多いが、S12では日本人が一貫して少ないことと終盤に他国人が多い様子がみてとれる。S13はアメリカ人が少なく、S14は日本人を挙げていない。

表1 ネットワーク構成員の人数（人）

ID	S11	S12	S13	S14
後期	10	10	10	10
終盤	5	10	10	9

表2 全ネットワーク構成員における国籍割合（%）

	日本人	アメリカ人	他国人	合計
留学後期	25.0	32.5	42.5	100.0
留学終盤	23.5	20.6	55.9	100.0

表3 調査協力者ごとにみたネットワーク構成員の国籍別カテゴリー（%）

協力者	アメリカ人友人割合		日本人友人割合		他国人友人割合	
	①後期	②終盤	①後期	②終盤	①後期	②終盤
S11	20.0	20.0	50.0	60.0	30.0	20.0
S12	50.0	20.0	10.0	10.0	40.0	70.0
S13	10.0	10.0	40.0	40.0	50.0	50.0
S14	50.0	33.3	0.0	0.0	50.0	66.7

表4 ネットワークの質

項目／調査時期	アメリカ人 (%)		日本人 (%)		他国人 (%)		
	後期	終盤	後期	終盤	後期	終盤	
属性	男性	38.5	28.6	30.0	12.5	41.2	47.4
	女性	61.5	71.4	70.0	87.5	58.8	52.6
	同年代	69.2	85.7	90.0	87.5	88.2	94.7
	学内	53.8	85.7	60.0	100.0	94.1	100.0
サポート	a. 勉強	30.8	71.4	40.0	50.0	70.6	61.1
	b. 相談	30.8	57.1	90.0	100.0	76.5	77.8
	c. 楽しむ	46.2	28.6	90.0	87.5	86.7	77.8
	d. 物やお金	7.7	0.0	50.0	0.0	11.8	16.7
	e. 情報	46.2	71.4	70.0	62.5	47.1	61.1
関係性1 (関与)	関係満足度	69.2	100.0	100.0	100.0	88.2	88.9
	相互依存度	53.8	42.9	80.0	87.5	88.2	88.9
	接触頻度	76.9	100.0	60.0	75.0	77.8	72.2
関係性2 (特性)	既知性	0.0	0.0	60.0	75.0	0.0	0.0
	近接性	38.4	85.7	80.0	100.0	64.7	88.9
会話	a. 個人的	38.5	42.8	100.0	100.0	76.5	77.8
	b. 一般的	92.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注) 表中の数字は、各日本人留学生在が挙げた全ネットワーク構成員(留学後期40名、留学終盤34名)において、どのくらいが当該の項目にあてはまるかという割合(%)。

## 考察

彼女たちが留学中に築いた、サポート供給源となるネットワークは、アメリカ人・日本人・他国人からなり、情動的・道具的・情緒的サポートなど多様なサポートを供給していた。その内容を見ると、一緒に楽しんだり相談をしたりするという、コンパニオンシップのサポートの期待できる割合は比較的高かったが、物や金銭等物質的サポートが期待できる割合は相対的に低かった。ネットワークとサポートに対する満足度は総じて高い。

今回の対象者が参加したセッションより前に実施された、別のセッション参加者の場合と比べてみると、同年代・学内の構成員が多い点は共通していたが、アメリカ人の割合とその関係の質は趣を異にする。構成員の中に占めるアメリカ人割合は、本調査では全体の2～3割、先の調査では5割程度であるが、今回のアメリカ人は、全員新規に知り合った相手で、しかもその満足度は比較的高い。彼女たちが、現地での新たな関係性の構築と充

実に、積極的に取り組んだことが伺える。セッションの受講との関わりをどう評価しているか、セッションでの学習内容をどのように活用していたのかについては、さらに丹念な検討を要する。

#### 引用文献

- 高濱愛 (2011) 『日本人留学生を対象とする文化行動学習プログラムの開発と実践』 2007～2008 年度科学研究費補助金 (萌芽研究) 研究成果報告書  
(<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/19324>)
- Takahama, A., Nishimura, Y. & Tanaka, T. (2008) “The influence of social skills on getting social support for adolescents during study abroad: A case study of Japanese short-term exchange students” 『留学生交流・指導研究』 Vol.10, pp.69-84.
- 高濱愛・田中共子 (2009) 「在米日本人留学生による滞米中のソーシャルスキル使用—留学前ソーシャルスキル学習の受講者と非受講者の場合—」 『留学生交流・指導研究』 11、pp. 107-117.
- 高濱愛・田中共子 (2010) 「米国留学予定の日本人学生を対象としたソーシャルスキル学習」 『一橋大学国際教育センター紀要』 創刊号、pp67-76.
- 高濱愛・田中共子 (2011a) 「在米日本人留学生のソーシャル・サポート・ネットワーク (1) —事前セッションによるソーシャル・スキル人為学習者における検討—」 『日本応用心理学会第 78 回大会発表論文集』 p. 19
- 高濱愛・田中共子 (2011b) 「在米日本人留学生のソーシャル・サポート・ネットワーク (2) —ソーシャル・スキル自然学習者における検討—」 『日本応用心理学会第 78 回大会発表論文集』 p. 55
- 高濱愛・田中共子 (2011c) 「米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・ソーシャルスキル学習セッションの記録 (1) —自己紹介と対人関係の開始に焦点を当てて—」 『一橋大学国際教育センター紀要』 第 2 号、pp. 123-132.
- 高濱愛・田中共子 (2012) 「米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・ソーシャル・スキル学習セッションの記録 (2) —アサーションに焦点を当てて—」 『人文・自然研究』 6 号、pp. 144-163.

**謝辞** 本研究は、平成 19 年～20 年度科学研究費補助金 (萌芽研究 19653099 代表 高濱 愛) の助成を受けた。